

## AGING FORUM 2011 の開催について



平成 23 年 11 月 9 日（水）、10 日（木）目黒雅叙園（東京都目黒区）

日本は、「平均寿命」「高齢者数」「高齢化のスピード」という3点において、世界一の高齢化社会です。日本の少子高齢化は、出生数が減り、一方で平均寿命が延びて高齢者が増加することがその原因となっています。多数の高齢者を少数の若者が支える社会では、生産性が下がることで経済の衰退が起き、国力の全体的低下は否めないでしょう。

一方日本は、アジアにおいても周辺各国に比べて、約20年先の2030年に、いち早く「超高齢社会」を迎えることとなります。この事実を逆手にとり、超高齢社会に必要な「インフラ」「プロダクト」「システム」を開発し、製品化、パッケージ化することで、20年先のビジネスモデルを構築することが可能です。

「AGING FORUM 2011」は、この方針のもと、産官学政の有識者による実行委員会の企画により、超高齢社会における『この国のあり方』を考え、産業振興を実現することを目的に開催し、11月9日（水）、10日（木）の2日間で1,149名の方にご来場いただいております。

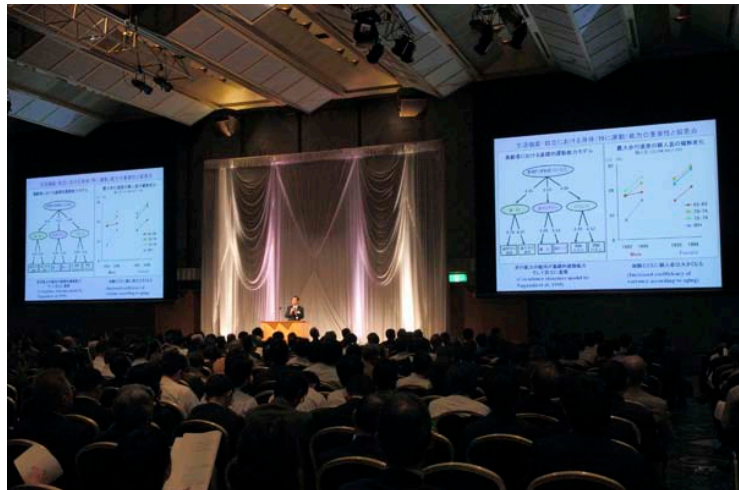
【開催概要・プログラム内容について】

<http://www.nikkeibp.co.jp/aging/forum/2011/>

第1日目（11月9日（水）プログラム）

テーマ：総論～2030年超高齢社会の予測と課題 その課題解決に向けて

シンポジウムⅠ 超高齢社会 アカデミアからの予測と課題 より、



1. 老年学の立場から

老いること、高齢者の現実 介護予防の重要性

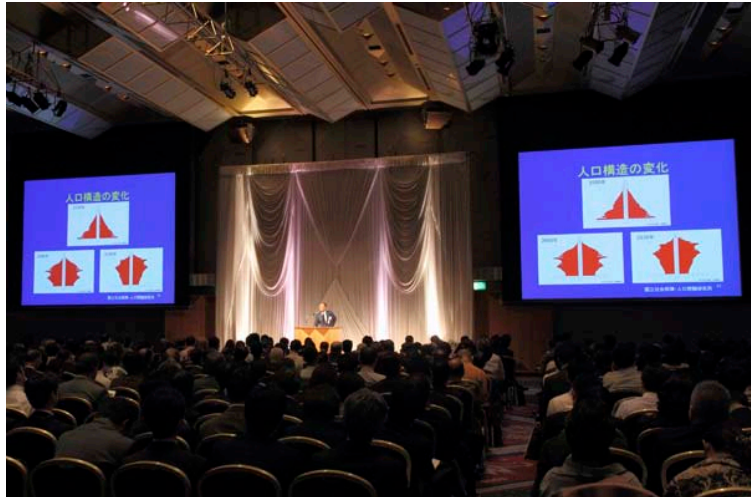
国立長寿医療研究センター 研究所長 鈴木隆雄



2. 高齢者医療の立場から

在宅医療を支える医療とは 特に認知症について

国立長寿医療研究センター 病院長 鳥羽研二



#### 4. 超高齢社会の国民的コンセンサス 長生きを喜べる社会とは

国立長寿医療研究センター 理事長・総長 大島伸一



#### パネルディスカッション

2030年 超高齢社会のイメージ・ギャップを正す  
全世代で、どのような社会を創っていくか

座長	東京大学高齢社会総合研究機構教授	辻 哲夫 氏
パネラー	国立長寿医療研究センター研究所長	鈴木隆雄
	国立長寿医療研究センター病院長	鳥羽研二
	慶應義塾大学商学部教授	樋口美雄 氏
	国立長寿医療研究センター理事長・総長	大島伸一

第2日目（11月10日（木）プログラム）  
テーマ：超高齢社会における AGING SOLUTION

セッション2-2 超高齢社会の成長戦略Ⅲ より、



在宅医療～病院から在宅へ。地域医療再編による新しい市場

座長コメント 国立長寿医療研究センター 理事長・総長 大島伸一

シンポジウムⅢ 2030年へのロードマップ この国を“創る” より、



パネル・ディスカッション 2030年へのロードマップ この国を“創る”

座長	東京女子医科大学教授	渡辺 俊介 氏
パネラー	東京大学高齢社会総合研究機構教授	秋山 弘子 氏
	全国社会保険協会連合会理事長	伊藤 雅治 氏
	民主党参議院議員	梅村 聡 氏
	自由民主党衆議院議員	西村 康稔 氏
	慶應義塾大学大学院教授	佐々木経世 氏